



塚本 逸彦 議員
(政清会)



国鉄広尾線の廃止に伴い廃駅となった忠類駅は、当時の駅舎が現在も遺（のこ）され、町が交通公園として管理している。

忠類駅舎には、駅の備品や掲示物が当時のまま残され、鉄道遺構としても貴重な駅舎であり、今後の利用と保全について、以下の点を伺う。

- (1) 盗難対策などのセキュリティを強化する考えは。
- (2) イベント開催など、更なる活用を行う考えは。
- (3) クラウドファンディング等を活用し、保全管理をしていく考えは。

町長

忠類駅は、昭和5年10月10日、旧国鉄広尾線の中札内駅から大樹駅間が延伸されたことに伴い開業した。

昭和57年、広尾線が日本国有鉄道経営再建促進特別措置法に基づく合理化計画の第2次赤字廃止線の対象となり、62年2月1日、広尾線は惜しまれながら廃止された。

問 忠類駅の今後の利用と保全について

答 現状の管理方法を継続しつつ、適切な保全管理に努めていきたい

同時に忠類駅も廃駅となったが、翌63年、旧忠類村が忠類駅及び駅周辺用地を買収し、交通公園として施設を整え、旧駅舎を公園内施設「鉄道資料館」として廃止時そのままの姿で保存するなど、現在でも在りし日の姿を偲ばせている。

ており、盗難や破損は確認されていないことから、引き続き現状の管理方法等を継続していきたい。

(1) 交通公園内の鉄道資料館である旧駅舎は、毎年4月から11月初旬まで開放しており、午前8時に開錠、午後5時に施錠し、施設内を公開している。

(2) 現段階においては交通公園周辺における町主催のイベントの開催は考えていないが、かつて「忠類チョーマナイかいフェスティバル」で開催された駅舎前でのミニコンサートなど、周辺への影響が小さい小規模なイベント開催の機運が盛り上がれば、町としても後押しをしていきたい。

施設内には、待合室や事務室に廃止時の運賃料金表や鉄道電話、駅員の制服などを展示しているほか、プラットホームに出入りすることが可能となっており、旧線路上には車掌車両1台、貨車2台を配置し、かつて鉄道が運行されていた当時の姿を再現している。

セキュリティについて、現状は施錠している事務室内に物品等の資料を展示し、待合室からの観覧となっている。事務室と待合室との間のガラスを割れにくい素材のものに交換するなどの対策を行っ

施設として可能な限り廃線当時の姿を保ち、訪れるみなさんにその姿を見ていただけるよう、必要に応じて適宜補修等を行ってきた。現段階においてはクラウドファンディング等の活用については考えていないが、今後も、地域の歴史を伝える駅舎としての機能を維持できるように、適切な保全管理に努めていきたい。



交通公園（旧忠類駅舎）施設内



交通公園（旧忠類駅舎）外観